

循環器内科

血管の健康が生存率を左右！
高性能装置と密な連携での確・迅速な診断・治療

日本人の死亡原因は、第1位のがんに次ぐ第2位が**心臓疾患**。その約半数が**心筋梗塞**や**狭心症**で、命にかかわる怖い病気の一つだ。血管の**動脈硬化**が原因で、冠動脈や下肢動脈に起こる。その**心疾患**と**下肢動脈疾患**の診断・治療について**最新装置**を導入、更なる実績を上げている西の京病院の心臓・下肢動脈センター長の**名方剛**医師に話をうかがった。



最前線医療を行う

先生の健康法

生活習慣病の予防には有酸素運動が一番です。ちなみに私はYouTube利用から週2〜3回のジム通いを始めました。

心臓・下肢動脈センター長
名方剛 医師
NAKATA TSUYOSHI

血管の健康が命に関わります。予防・治療は運動と食事療法。また睡眠を含め、生活のリズムを保ちストレス軽減が大事です。オンオフで緊張緩和の時間を持ちましょう。

心臓や血管の病気

血液のポンプ役である心臓を取り囲む冠動脈が硬く狭くなると、胸が締め付けられるような痛みやひどい動悸がするなど、心筋梗塞や狭心症などの**虚血性心疾患**を生じる。

また、休み休みじゃないと足が痛くて歩けない（**間歇性跛行**）や足指の治らない傷などの症状は、**下肢閉塞性動脈硬化症**の疑いがある。

下肢閉塞性動脈硬化症は、重症化しなくても死亡率が高く、重症化すると**進行がん**より**予後も悪い**病気。特に透析患者はなりやすいという。



心臓・下肢動脈センターとしてリニューアル

大幅な被ばく量軽減と超高画質

心筋梗塞や狭心症、下肢閉塞性動脈硬化症の疑いがある人は、冠動脈や虚血性・下肢動脈などの状態を細かく調べるカテーテル検査と治療を行う。

同院では、**アンジオ（心・血管造影）**装置などを更新。新装置の特徴は**高精細・低被ばく・低侵襲**だ。二方向同時撮影で撮像時間を短縮でき、放射線量を軽減、**造影剤投与量も減らせる**ので、患者の負担を軽減しつつ高度な医療を提供できる。



※パイプレン装置で二方向から同時撮影

コロフロー（Coroflow）導入で微小血管障害性狭心症も診断可能に

これまでの心臓CTやMRIなどに映るのは5%程度の血管。これまで胸痛を覚えても異常なしとされていた人が、残り95%の微小血管障害による狭心症の場合があるとされ、同院では即、心・血管造影装置のコロフローを導入。検査時間は多少延びるが、より**詳細な検査と治療が可能**になった。

フットケアチーム力で下脚動脈疾患をはじめ、脚のトラブル全般をサポート

また同院は各科の連携がスムーズでチーム医療を得意とし、間歇性跛行は、下肢閉塞性動脈硬化症だけでなく**脊椎管狭窄症**の場合もあり、整形外科での診断も仰ぐ。

さらに脚の健康に関しては、「フットケアチーム」を結成。医師、看護師、透視センター、管理栄養士、臨床工学科、リハビリテーション科（理学療法士）などが定期的に一堂に会し、患者一人ひとりの治療方針を立てて密な連携治療を行っている。



熟練専門医が診察から治療・フォローまで



熟練した専門医が、周囲の医療スタッフと共に、診察から治療、リハビリまで総合的に診る医療環境が当院の強みです。



コントロールできる者が動脈硬化を制する！



危険因子は、生活習慣の乱れに！
塩分・糖質・脂肪分過多、喫煙、運動不足
心疾患も下肢閉塞性動脈硬化症もその原因は、**加齢**のほかに**生活習慣の乱れ**が大きい。生活習慣病（高血圧症・高脂血症・糖尿病・慢性腎不全）に喫煙・家族歴（遺伝）が影響し、その危険因子は、脂肪分や塩分、糖質の多い食生活、たばこ、そして特に**運動不足**だ。